

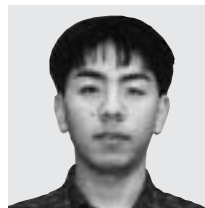
## 私が見た 図書館

大学院英米語学専攻2年生 玉田 修一郎

後期の授業も残りわずかとなり、テストやレポート作成に忙しい時期となりました。私も論文作成に追われる日々が続いておりますが、その大きな助けとなるのが本学図書館が所有する多種多様な辞書です。

辞書といっても人名辞典、文学辞典、言語辞典、社会科学辞典、哲学辞典、科学辞典、宗教辞典などが本学図書館に配架されており、その冊数の多さには圧倒されるばかりです。例えば、地下書庫には第一閲覧室にある数倍の辞書が置かれており、調べやすいように分野ごとに分類されていることも大きな利点の一つです。また、言語学という一つの分野に絞っても語法辞典、慣用句辞典、語源辞典などより専門的な辞書が豊富なことも皆さんの知識を磨くことに役立つことは疑いの余地がありません。更に、本学図書館の特色の一つとしてセビリーの大司教イシドロによって著された中世における最も古い百科事典の一つである『語泉』やディドロの『百科全書』など1,160点もの貴重な古辞書や古辞典を所有していることも挙げられます。

試験シーズンを迎えて辞書に触れる機会が多くあると思いますが、閲覧室での調べ物に限らず気軽に地下書庫を散策することによって未知の出来事を体験し、幅広い知識を吸収してみたいかがでしょうか。



### 海外の図書館レポート

## ベルン大学の図書館について

交換留学生 ギド・ゲフター

ベルン大学は、1834年にスイスの首都ベルンに創設された総合大学で、約1万人の学生が学んでいます。210万冊の蔵書を誇る大学の図書館は、学生と研究者のためだけの施設ではなく、ベルン市立図書館として誰でも利用することができます。町の中心に位置する本館の他に、文学部と法学部の建物にはそれぞれ専用の図書館があり、さらに各学部、各研究所には付属図書館があり、それぞれ市立図書館とは異なるシステムで運営されていますが、すべての図書館はオンラインで結ばれています。今では本や雑誌だけでなく、CD、ビデオ、CD-ROMやDVDなども借りることができます。研究専用ですが、膨大な数の中世の貴重な写本も保存されています。その写本の大部分はベルン市の歴史やキリスト教に関するもので、ラテン語や古いドイツ語で書かれています。その他、アラビア語、ヘブライ語、ベルシャ語やサンスクリット語などの各国語で書かれたものもあり、その中には18世紀の日本の巻物も2巻含まれています。

もちろん、本館には他の大きな図書館と同様に、閲覧室、コンピュータ・ルーム、会議室なども設置されています。図書館の利用法についての一般的なオリエンテーションとは別に、論文を書いている学生のための特別な説明会も開かれています。図書館員は様々な専門分野の人々で構成されていますので、専門的な問題についても相談することができます。

いずれにしても、ベルンの図書館は、一度訪れてみるだけの価値のある所です。

